



天孫降臨

葦原中津国が静かに治まったので、いよいよ天照大御神の御子が天降りすることになりました。

ところが、国譲りの交渉中に、天照大御神の御孫がお生まれになりました。この御孫は、日の神・天照大御神の御子と、宇宙の生命力の神・高御産巢日神の御娘が結婚されて生まれた方です。天照大御神は豊葦原水穗国へ天降るご命令を御孫に仰せつけられました。

名は、天も地も黄金の稲穂が賑々しく栄える天照大御神の直系の天孫という意味の天邇岐志天邇岐志天津日高日子番能邇々芸命といいます。天つ神の御孫が降臨すると聞いて、国つ神の猿田毘古神が天地を貫く光を発し、道案内にやってきました。

従者となったのは、天岩屋戸の前で天照大御神にお出ましたただくお祭りに奉仕した神々です。そのとき使われた勾玉と鏡、それに草薙の剣が邇々芸命に授けられ、天照大御神は「鏡は、吾が御魂として祭れ。思、金神は天孫に仕えて政治を行え」と仰せられました。

ここに天津日高日子番能邇々芸命は、高天原の神座を離れ、一行は天空に幾重にもたなびく雲を押し分け、天の浮き橋に威風堂々と立たれ、筑紫の日向の高千穂の峰に降り立たれたのです。

○天孫降臨は、天照大御神さまのどんなお考えから行われたのでしょうか。